

昨日、北安曇地方事務所管内で、大北森林組合以外で、1億円を超える、補助金の不適正需給が、あったと公表されました。

どうして防げなかったのか、地元選出の議員として、残念な気持ちで一杯です。

大北森林組合以外については、原因や、責任の度合いは、さまざまのようであります。

大北森林組合の補助金、不適正受給事案の原因について、県の検証委員会の報告では、不適正な申請を主体的・能動的に行い、多額な利益を得ていた組合に責任がある。一方で、県側の、コンプライアンス意識の欠如した対応や、実情把握を怠っていたことなども、厳しく指摘しています。

組合が自らの非を認め、10月5日、県に対して謝罪しました。また、組合は、再生に向けて、地区別の懇談会など開催し、今月には、臨時総代会を開催する予定と聞いています。

県としては、こうした組合の動きをどう見ているのか。併せて、再生に向けては、県の果たす役割も、必要かと

と思いますが、どう取り組むのか、林務部長にお伺いします。

県側の原因に対しては、10月に「林務部コンプライアンス推進行動計画」がまとめられました。

行動計画の中で、今回の事案の背景に、「信州の森林づくりアクションプラン」達成への、プレッシャーが影響したと分析され、地域によっては、過重な計画であったとされていますが、大北地域においては、どのように過重であったのか。

その原因はどこにあったのか。また、今年度の見直しに当たっては、どう具体的に見直ししていくのか、林務部長にお伺いします。

昨日、公表された事案を含め、

今回の事案は、地方事務所の林務課職員が、きちんと現地調査をしていれば、防げた事例も多いわけですが、なぜ出来なかったのか。具体的にどう改善していくのか、林務部長、お聞かせください。

知事、自ら、林務行政の再生に向けた、林務部職員との

車座集会に出席していますが、林務部を含めた、県、組織
全体の、意識改革に取り組む、決意を、知事にお伺いしま
す。